

ことぶき薬局 055(977)6024 FAX055(977)0890 たまち薬局 054(251)1678 FAX054(251)1685
ひまわり薬局 053(463)4312 FAX055(460)4612 みかん薬局 053(584)2230 FAX053(584)2240

今月は、甲状腺とその病気についてお話しします。

甲状腺とは

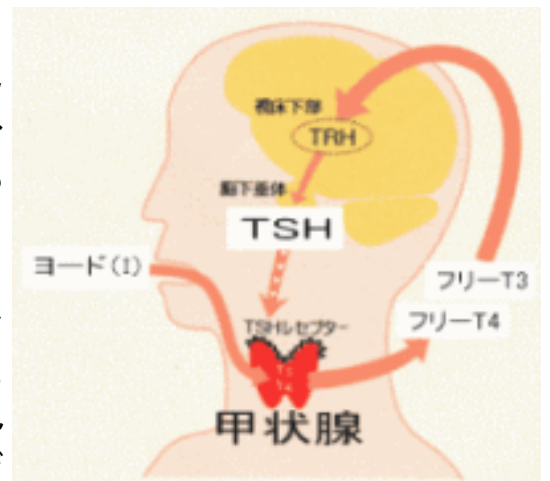


甲状腺と呼ばれている臓器は人間誰でも持っています。のどぼとけの下に、ちょうど蝶が羽を広げて気管を抱くような形でくっついてあります。大きさは、左右に広く縦4cm厚さ1cmで重さは15g、正常の甲状腺は柔らかいので外からは触ってもわかりません。

甲状腺のはたらき

甲状腺は、(右図)のように食物中のヨードを材料にして甲状腺の中で甲状腺ホルモンを2種類合成し、血中に分泌する内分泌の臓器です。甲状腺ホルモンの量は、脳にある脳下垂体から出る甲状腺刺激ホルモン(TSH)により調整されています。

ヨードは昆布・ひじきなどの海藻類に豊富に含まれており、これらを好んで食べる日本人はヨードが不足することはまずありません。また、ヨードをとりすぎてもつくられる甲状腺ホルモンの量は調節されるのでヨードのとりすぎを心配する必要もありません。健康な人は、ちょうど良い適量の甲状腺ホルモンが血液中に存在する為に、快適な生活が送れるのです。



甲状腺ホルモンののはたらき

甲状腺は、体の新陳代謝を促す甲状腺ホルモンを分泌しています。甲状腺ホルモンは、哺乳類や両生類などの動物も持っており、例えばオタマジャクシの甲状腺ホルモンが不足するとカエルになる事ができません。

人間の新生児では、甲状腺ホルモンの材料になるヨードが不足すると脳の発育や成長が遅くなり、知能障害や身長が伸びない先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)という病気を引き起こす原因となります。この時は、速やかに不足している甲状腺ホルモンを補う治療を開始しなければなりません。

このように、甲状腺ホルモンは発育や成長に欠かすことができず、また全身(脳、心臓、消化管、骨、筋肉、皮膚、その他)の新陳代謝を活発にする働きがあり、精神神経や身体の活動の調整にも働きます。日本では、昭和55年(1980年)より、無料で全ての新生児に先天性代謝異常症と一緒に甲状腺刺激ホルモンの検査をして、早期発見・早期治療ができるようになりました。

甲状腺異常のサイン

他の病気と混同されて見逃されやすい甲状腺の病気ですが、体のサインから気がつくことがあります。具体的には、

抜け毛が増えた

つめが伸びるのが早くなった

首が腫れてきて洋服の襟がきつい

目が見開いたようになる



などがあります。甲状腺ホルモンの分泌が正常になると、これらの症状はおさまってきます。

甲状腺の腫れや顔、からだの症状が確認できれば、簡単な血液検査でホルモンの量を測定します。治療法は飲み薬で、甲状腺ホルモンを正常な量にコントロールしていきます。

甲状腺機能亢進症

甲状腺機能亢進症は、いくつかの原因で甲状腺が刺激されて、甲状腺ホルモンの分泌が増えて起こります。体の新陳代謝を異常に高めてしまうので、手先の震え、眼球の突出、動悸、発汗、微熱、頻脈、体重の減少、などの症状がでることがあります。出産後や更年期の女性に多く見られ、うつ病や更年期障害と間違われやすい病気です。

バセドウ病

機能亢進症の原因でとなるものは、その9割がバセドウ病で、女性に多い病気です。バセドウ病では体内で甲状腺を刺激する物質である自己抗体ができ、そのために甲状腺が刺激され、甲状腺ホルモンを大量に分泌します。精神的には、落ち着きがなくなり、イライラや不眠、体重が減ってしまう人や、逆に食べ過ぎて体重が増えてしまう人もいます。眼球突出やのどの腫れから、病気がわかることが多くあります。

治療薬には、抗甲状腺薬（メルカゾール、チウラジール）などを使います。

甲状腺機能低下症

甲状腺機能低下症はバセドウ病と逆で、甲状腺ホルモンが少なくなる病気です。のどぼとけの下全体が腫れているような症状ですが、痛みがあるわけではありません。「痛くもかゆくもなかったので放っておいた」となると、やがては新陳代謝が低下して、体のいろいろな部分に加齢や老化と同じような症状がでます。

具体的には、無気力で頭の働きが鈍くなる、もの忘れ、いつも眠い、受け答えがゆっくり、冷え、むくみ、皮膚の乾燥、髪が抜けるなどの症状がでます。怠け者やうつ病と間違われることもあるので注意しましょう。高齢者では痴呆の原因の1つにもなります。

治療薬には、ホルモン製剤（チラーヂンS）などを使います。

甲状腺腫

甲状腺内にしこりができる疾患です。良性がほとんどで甲状腺機能には影響しないので、体調や精神状態に大きな影響がでることはありません。しかしごくまれにがんやリンパ腫など悪性のものがありますから注意が必要です。

文責：山本

参考：http://www.ito-hospital.jp/03_iodine/02_food_including_iodine.html

<http://www.hahoo.jp/~koujyousen/siikan/p2.htm>

http://jfpa.info/wh/kanja_gaku/koujyousen.html